

書塾の仲間たち

第 265 回

やまぶき

山吹会 (埼玉県川越市)



● 書塾からひとこと ●

私たち山吹会は、「楽しく書を学ぶ」ことをめざして、硬筆と毛筆の稽古会を開いています。お稽古では、「毎月休まず課題を提出する」「行書体を書けるようにしたい」「段位認定試験に挑戦する」など、おのおのが目標を持って課題に取り組んでいます。会員は六十代から八十代の方が中心で、会員の生涯学習が続けていく姿に私も尊敬の念を抱いています。

会の雰囲気は和気あいあいとしており、互いにコミュニケーションが活発に行われています。暑気払いや新年会など折にふれて食事会などもあり、笑顔あふれる楽しい会です。「この会でおしゃべりすることが気分転換になって楽しい」と会員からも喜ばれています。硬筆の会員は、川越駅の近くにあるウェスタ川越という施設で会議室を借り、月2回活動しています。主に自宅で書いてきた課題を教室で添削する形をとり、会員同士の会話を楽しみながら学んでいます。

毛筆の会員は、不定期で年に数回勉強会を行っています。持ち寄った課題に対し、会員が互いに感想を述べ合い、楽しみながら切磋琢磨しています。日本武道館で開催される毛筆の講習会にも積極的に参加しています。

ゆっくりとした歩みであっても自分自身の成長を実感できることは、何歳であっても喜びです。また、仲間と共に楽しむことが、それぞれの人生を彩り、前向きに歩む力になるのだと思います。山吹会がそのような場所であるように、これからも活動を続けてまいります。

山吹会 宮内 良枝

※書塾に連絡したい方は事務局へお問い合わせください。



練習を楽しみながらがんばります

三重県紀北町立相賀小学校三年 中森 みこ

わたしはそつ園前のころに、教室に通いはじめました。小さいころから、字を書くことが好きで、もっと上手に書けるようになりたかったので習うことを決めました。

きんちょうして、ドキドキしながら教室に行くと、先生がやさしく、楽しく教えてくれたので、あっという間に時間がすぎていきました。それから、毎週習字教室に通うのが楽しみになりました。

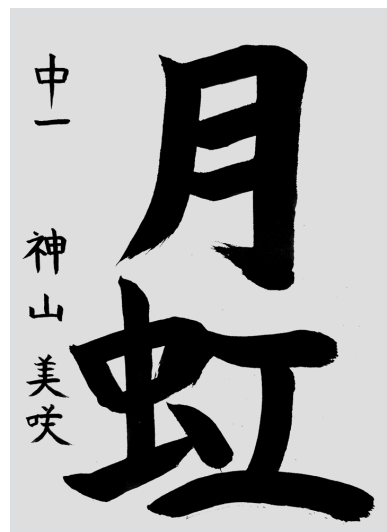
ならいはじめて一年たったころ、「書写書道」の写真版にわたしの作品がありました。その時はすごくうれしくて、「またえらばれたい!」と思うようになり、その時からもっと習字が楽しくなりました。もちろん、うまく書けない時もあった、とてもくやしい気持ちになる時もありました。そんな時は家で何回も練習しました。そうしているうちに、先生や友達に褒められることも多くなって、上手になれていると思うとすごくうれしかったです。

これから、もっと上手に書けるように練習を楽しみながらがんばります。

そのためにまず、上手に書ける人の字や、お手本の字と自分の字をくらべて、どこを直した方がいいのかを自分でよく考えながら、一画一画をていねいに書こうと思います。

いつか、わたしも「書写書道」の特別優秀表彰作品にえらばれる作品を書きたいです。

私と書写書道 第265回



書道と仲良くなりたい

栃木県鹿沼市立西中学校二年 神山 美咲

私が通っていた幼稚園には「文字教室」というものがありました。この文字教室に参加したことが私と書道との出会いでした。はじめは、文字がよく分からず、楽しさをあまり感じる事ができませんでした。

ある時、地域の小さな書道展で賞をもらいました。学校の友達や近所の人に「すごいね!」と褒められて嬉しくなり、少しずつ「がんばろう」という気持ちが湧いてきました。

小学校一年生の時には、栃木県学校教育書写書道作品展で金賞をもらいました。私は嬉しい気持ちと同時に「もっと上手になりたい」と思うようになりました。

書道で難しいと思うのは、ひらがなです。漢字とは違う特別な個性を持ったひらがなを書くときは、いつも苦労しています。書道教室の先生は、ひとつひとつの文字のポイントやコツを、分かりやすく優しく教えてくれます。また、休憩の時には、おもしろい話もしてくれます。先生のおかげで、少しずつ級も上がり、今は一文字一文字の注意点を整理して書くことができますようになりました。

書道を学んできたおかげで、席書大会にも参加できました。前に、高校生の書道パフォーマンスを見た時に私はとても強く衝撃を受け、いつか挑戦してみたいと思っています。書道を学んだことで、自分で文字を書くだけでなく、他の人が書いた文字も関心を持って見ることができるようになりました。

これから、書道を通してどんな経験ができるのか、どんな出会いが待っているのか、想像すると楽しくなります。これから、もっと上手くなって、書道と仲良くなりたいです。